

日本共産党議員団の主な一般質問

森ノイ子議員

子ども子育て新システムと 保育行政について



Q 政府が進める新システムは、民間企業の参入を容易にし、公的責任を後退させることになり、反対を表明すべきではないか。

また過去に特別保育の実施園を増やすよう提案したが、その後の取り組みはどうか。

A 新システムは未定の部分も多く見解をのべることは難しい。国の動向を見守りながら慎重に検討していく。障害児保育は宮田保育園で、0歳児保育は古知野西保育園で、ともにH24年度から実施する。

パーソナルサポートシステムについて

Q 市民相談に専任の職員を配置し、市税など滞納の背景にある失業や多重債務の解決などに積極的に対応すべきではないか。

A 現在も税の訪問徴収の際に多重債務などの情報があれば、相談窓口に誘導を行っている。今後も市民相談室を中心として、庁内各課や弁護士などの専門家とも連携を図っていく。

火災発生時の断水について

Q 宮田神明での火災の際に一部地域で断水が発生した原因と対策は。

A 簡易水道時代の水源を利用しているため、防火水槽への補給は本管からするよう工事を実施する。

◎その他、大型建設事業が目白押しとなっている状況をふまえ、財政シミュレーションを示すこと、防災計画の見直しを、臨床心理士の配置についても、質問しました。

東よしき議員

再生可能エネルギーの利用拡大を



Q 東日本大震災と東京電力・福島第一原発の事故は、原発依存のエネルギー政策の危うさを最も深刻な形で国民の前に突きつけた。

原発からの撤退と再生可能エネルギーへの転換が求められる中、市の環境基本計画にも住宅用太陽光発電システムの普及促進の必要性が記載され目標設置数も示されている。しかし「関心があっても設置費用が高くて導入できない」という家庭が多い。

再生可能エネルギーの利用拡大を進める長野県飯田市では、太陽光発電の設置を希望する住民に対し、事業の中心を担う「おひさま進歩エネルギー(株)」が地域の事業者を通して「無料」で設置。その後、「おひさま進歩」が設置家庭から9年間、月々定額を電気料金としてつけよりの10年目以降は、発電分は全て設置家庭の収入となる。

江南市でもこのような制度を導入してはどうか。

A 飯田市の大変ユニークな制度であると認識している。設置費用が高くて太陽光発電を導入できないという家庭に対し、設置のハードルを下げることによって普及促進を図るものだ。融資・貸付制度を利用して設置するなど色々な形態があるようなので、先進事例を調査したい。

◎その他、住宅用火災警報器取り付けの促進について、消費税の増税に頼らず、社会保障充実、財政危機打開の日本共産党の「提言」について、小規模契約希望者登録制度の活用についても、質問しました。

かけのまゆみ議員

使用料・手数料の値上げ中止を

Q 公民館や学供などの使用料を無料から一律に有料化する計画に対し「こんなに取られては、サークル活動が続けられない」と、市民から批判の声があがっている。増収額と新たな必要経費、利用者減をどう見込んでいるのか。高齢者のふれあいの場、生涯学習の場の整備に冷や水を浴びせることになる。

A 有料化で利用者は2割減、値上げで1割減、増収額は約4900万円をそれぞれ見込み、必要経費は精査していないので不明。増収額以上に新たな必要経費がかかる場合は、費用対効果の観点から総合的に検討する。

Q 老人福祉センターや学供、公民館、布袋ふれあい会館などについて、建設費を含む100%の経費を受益者負担で回収するよう、使用料が算定されており、納得できない。

特に社会教育法に位置づけのある公民館に、この考え方を持ち込むのは問題だ。

A 使用料の算定は、性質、稼働率、減価償却を含め考えている。施設の建設自体が利用者にとって受益であることから、利用者が平等に負担していくということで、検討している。

◎その他、新こみ処理施設建設について、巡回バスについても質問しました。



* 3月市議会一般質問の録画中継は、江南市ホームページで見ることができます。なお、次回の6月定例会からは、生中継も実施されます。

値上げの春、くらし応援にこそ予算を

新年度予算…わずかな福祉削る一方で、大きなムダ使い

市議会3月定例会は、3月14日に閉会しました。日本共産党議員団は市民生活を守る立場にたって、23議案と請願5件、意見書2件に賛成し9議案に反対。一般質問や議案質疑、討論をとおし、福祉と防災のまちづくり実現のためにがんばりました。



古西保育園民営化、介護保険料値上げ、不要不急の公共事業やめよ

新年度予算では、保育に対する公的責任を放棄する古西保育園の民営化や介護保険料・後期高齢者医療保険料の値上げ、要介護高齢者宅の訪問理髪サービスの有料化など、弱者へのささやかな福祉さえ削減。

ところが布袋本町通線整備では、たった70mに今後を含めて6億6千万円をかけ、さらに国道155号線までの整備に5億4千万円も費やそうとする異常なムダづかい、「屋上屋を重ねる」宮田導水路上部整備など、不要不急の公共事業が予算化されました。

日本共産党議員団は、ため込んだ基金も活用し、防災・浸水対策の推進、県下でも遅れている子どもの医療費無料の年齢拡大など、くらし福祉の増進を求めました。

豪雨災害の復旧でも、またもや名鉄いいなり

また、昨年8月の集中豪雨で故障した江南駅エレベーターの修繕費の半額183万8千円を、江南市が負担する補正予算が提案されました。市民は全額自費で改修しているのに、名鉄にだけ負担するのは問題だとして、反対しました。

「年金削減の中止を求める請願」を市議会が不採択に

3月市議会に、「年金の2.5%削減と支給年齢の引き上げをやめ、すべての高齢者に3.3万円の年金を支給するよう、国に意見書の提出を求める請願」が、年金者組合江南支部から提出されました。しかし請願すべてに賛成したのは日本共産党議員団だけで、議会は年金者の願いに背をむけました。

古西保育園の指定管理者は、学校法人・愛知江南学園に

日本保育サービス（現在の布袋北保育園指定管理者）と愛知江南学園（江南短大・幼稚園経営）の2事業者が応募。選定委員会における4回の協議の結果、後者の評点が上回ったものです。日本共産党議員団は、民営化（指定管理）された布袋北保育園で園児・保護者が被った不安と混乱の経験、直営との経費差が年間わずか246万円で経費削減にもつながらないこと、引継ぎの混乱を防止するため新たに嘱託職員を採用せざるを得ないことなど、民営化する理由はどこにもないとして反対しました。

市民のみなさんの要望が一步前進しました

2011年度3月補正と新年度予算で、市民要望が実現しました。



- ◎ 住宅リフォーム促進補助金
(10万円以上の工事に10%補助、限度額10万円)
- ◎ 浸水防止対策
北部中学校に雨水貯留施設(設計費)、個人宅の雨水貯留タンクや浸水防止壁設置に90%補助
- ◎ 地震防災対策 ほか
市役所西庁舎の耐震補強工事(設計費)、交通児童遊園耐震補強工事、古知野中学校南舎大規模改修工事、音楽室等にエアコン設置(布袋小、古中、北中、西中、布袋中)
- ◎ 防犯灯にLED灯補助を新設
- ◎ 子どもの発達相談、支援に臨床心理士を配置
- ◎ 江南駅トイレのバリアフリー改修工事
- ◎ 市単独の養護教諭1名増員、特別支援教育支援員3名増員と勤務時間の拡大
- ◎ 障害児保育を宮田保育園でも実施(10園に)
- ◎ ゼロ歳児保育を古西保育園でも実施(7園に)
- ◎ 落ち葉、草、剪定枝を地域の資源ごみ集積所で回収(6月から実施)

被災地にも復興増税、実質は法人税の大減税で帳消しに

復興増税として個人市県民税均等割が1000円引き上げられ、所得税額は2.1%の定率増税。一方、法人税は3年間だけ10%の付加税が課されます。しかし同時に、法人税の実効税率を約5%引き下げる減税も行われます。これにより、はじめの3年間、企業は実質負担増にならず、4年目以降は法人税の大幅減税だけが残ることになります。

結局、すべての世代で等しく負担をと言いながら、復興増税で実質負担増となるのは所得税と住民税だけ。しかも増税による増収分が法人税減税で相殺され、復興財源は1円も生み出されない計算です。

被災地住民にも課される欺瞞に満ちた市民税増税に、日本共産党議員団は反対しました。